

〈特集1 続・めし その三〉

読者から

私も、あづきがゆ、を食った

和歌山 河本乾次さん

〔前略〕武田麟太郎の書はよく食べました。大正二
いてゐる。芋がゆ。は、殊 年頃、私は南海電鉄の駅夫
念にして食べる機会はなか 時代。釜のドマンナカで三
たですが、あづきがゆ。 釜の部屋を借りていました。

朝、出勤の途中、ドンズリ
酔いっばい三銃のうまい味
は忘れません。

その前、大正5年頃だつ
たか、エビス町の新世界の
入り口にあつた毎日新聞の
販売店で、数ヶ月度連夫で
いた頃、萩の茶屋区原を受
け持っていたので、毎日朝

タの二回は釜の中を這つて

いました。それを釜の中の
すみすみまで知るようにな
りました。

その頃の萩の茶屋は田園
の如外で、駅前には小池があ
つて、そこに柳の木が一本
ポツンと立っていた風景が、
今もまた目に残っています。

をすこす

私の、あづきがゆ。を食
べた当時の釜はスラム街で
あつて、現在の労働者街の
釜とは、その内部構造はち
がつていました。戦後の釜

については、私は語る資格
がありません。御健闘を祈
ります。

〔編集委員下への手紙を
抄出〕

読者から

飯場のせしめ計画……

大塚社 小林音三郎さん

〔前略〕僕が書きたいこ
とは飯場の食事です。飯場
にいづてる者ならお判りに
なると思うのですが、全く、
ピーンからキリまでありま
す。だから、何々組のめし
は良いとか、その方面もア
ンワートをしてはいかがな
ものではないか。万一にも

その調査で飯場の制度とい
うものが改善されればよい
と思うのですが、また「飯
場」の件について色々研究
してほしいと思います。そ
の点については、のちにく
わしく書きたいと思ってい
ます。